

相談援助の理論と方法

問題 98 ソーシャルワーク実践における人と環境の関わりに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライアント自身が捉える環境の意味を把握する。
- 2 環境要因に対するクライアント自身の他罰的な考え方を強化することを目的に支援する。
- 3 クライアントが抱えている問題の原因となっている環境要因を排除することで、問題解決を試みる。
- 4 クライアントを、環境から一方的に影響を受ける存在とみなして、支援を行う。
- 5 クライアントが問題を抱えた原因を、クライアントの性格に求める。

問題 99 事例を読んで、NPO法人のC相談員(社会福祉士)の今後の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Dさん(30歳、女性)は半年前に、夫の転勤によりN国から夫と二人の子どもと一緒に来日し、現在も四人で暮らしている。最近、長男のE君(10歳、小学生)が、弟(5歳)のおもちゃを取り上げたり、たたいたりするなどの行為を家庭内で行うようになった。Dさんは、E君から、「学校の同級生にからかわれている」と聞いた。E君の日本での生活について心配になったDさんは支援を求めてNPO法人を訪れ、C相談員の面接を受けた。

- 1 Dさんに、E君の暴力的な行為は時間が過ぎれば解決するので心配ないと伝える。
- 2 E君から、現在の学校や家庭での生活の様子や思いを聞く。
- 3 E君を他の学校に転校させるよう促す。
- 4 子どもたちを連れて帰国することを強く勧める。
- 5 個々の家族員に対し、E君に対する接し方を指示する。

問題 100 ソーシャルワーク実践理論に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 グループワークを体系化したのは、リッチモンド(Richmond, M.)である。
- 2 治療モデルを確立したのは、タフト(Taft, J.)とロビンソン(Robinson, V.)である。
- 3 生活モデルを提唱したのは、ピンカス(Pincus, A.)とミナハン(Minahan, A.)である。
- 4 ジェネラリスト・ソーシャルワークは、ソーシャルワーク理論の統合化により発展した。
- 5 ナラティブ・アプローチは、専門性に基づく支援者の知識に着目した。

問題 101 事例を読んで、この場面における解決志向アプローチに基づくFスクールソーシャルワーカー(社会福祉士)の対応方法として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Gちゃん(9歳、女児)には、1年ほど前から不登校の傾向が見られる。Fスクールソーシャルワーカーは、Gちゃん宅を訪問し、Gちゃんやその母親と2週間に1回程度の定期的な面接を行っていた。しかし、登校できる日数が徐々に減ってきた。Gちゃんは学校に行きたいと思っているが、朝起きると身体が動かず、登校することができないとのことであった。

- 1 Gちゃんが学校に行くことのできない原因の分析を行った。
- 2 Gちゃんに、変える必要のある考え方や行動について伝えた。
- 3 Gちゃん自身ではなく、家族の問題の克服を目指した。
- 4 Gちゃんに、学校に行き授業を受ける必要性を強く意識させた。
- 5 Gちゃんが学校に行くことのできた日の状況や行動に焦点を当てた。

問題 102 リード(Reid, W.)とエプスタイン(Epstein, L.)が提唱した課題中心アプローチに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 スtrenグスモデルの影響を受けている。
- 2 過去に起きた出来事について探索し、問題の原因を究明する。
- 3 支援期間を短期に設定し、処遇目標や面接の回数などを明確化する。
- 4 クライアント自らが解決困難と考える問題を、支援対象とする。
- 5 精神分析的な方法を用いて、クライアントのアセスメントをする。

問題 103 エンパワメントアプローチに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 人・状況・両者の相互作用という三つの相互関連性からクライアントの問題を捉え、「状況の中の人間」という視点を重視する。
- 2 観察可能な行動として問題を捉え、行動に影響する諸条件を操作することにより行動を変容させる。
- 3 危機的な状況に陥ったクライアントにできるだけ早期に介入し、現実を受け入れ再出発することを支援する。
- 4 クライアントが、自分の置かれている抑圧状況を認識し、潜在能力に気づき、対処能力を高めることに焦点を当てる。
- 5 クライアントのニーズを援助機関の機能との関係で明確化し、その機能を個別化して提供することに焦点を当てる。

問題 104 相談援助の過程におけるインテーク段階に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライエントの主訴を把握し、ソーシャルワーカーが所属する機関の機能について説明する。
- 2 クライエントの支援計画の策定のために、具体的なサービスを検討する。
- 3 クライエントの生活全般にわたり支援の効果を評価し、支援経過を確認する。
- 4 クライエントとその環境全般にわたる多様な情報を収集し、支援計画を作成する。
- 5 クライエントと共に支援の成果について話し合い、今後の生活目標を設定する。

問題 105 事例を読んで、この段階における社会福祉協議会のH社会福祉士の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

P町の社会福祉協議会のH社会福祉士は、J民生委員からKさん世帯の相談を受けた。Kさん(70歳、女性)は、一人息子(45歳)との二人暮らしである。息子は20代に統合失調症を発症し、その後、精神科に入退院を繰り返していた。1年前に退院し、定期的に通院していたが、このところ通院が不定期になっている。最近、J民生委員はKさんから、「息子が暴力まではいかないが、暴言を吐くことがある」と聞き、Kさん世帯を心配するようになった。

- 1 P町の保健師と家庭を訪問し、息子の病状と世帯の生活状態を把握する。
- 2 息子に社会生活技能訓練(SST)を受けさせるための手続を行う。
- 3 息子の主治医に連絡し、措置入院の手続を行う。
- 4 息子の自立を当面の目標にして、就労支援サービスに結び付ける。
- 5 Kさん一家の家計状況について、地域住民から情報収集を行う。

問題 106 ソーシャルワークの記録に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 個人情報保護よりも閲覧のしやすさを優先して保管する。
- 2 文章で表現し、記号や図は使用しない。
- 3 クライアントやその家族からの情報は、正式な記録とはならない。
- 4 サービス利用者本人には非開示としなければならない。
- 5 適正に援助業務を遂行したことを説明するための証拠となる。

問題 107 事例を読んで、L社会福祉士が、個別支援を地域支援に展開していくための対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

社会福祉協議会に勤務するL社会福祉士は、民生委員からMさん(72歳、男性)のことが気になると相談を受けた。Mさんは1年ほど前に妻を亡くし、それ以降、自宅に閉じ籠もっているという。その後、民生委員とMさん宅を訪問するうちに、「慣れない家事に苦勞し、悩みを打ち明けられる人もいない」という思いを聞くことができた。民生委員によると、この地域には一人暮らしの男性高齢者が他にもいるということだった。

- 1 民生委員にMさん宅での食事づくりを依頼する。
- 2 Mさんに対し、介護保険制度における訪問介護の利用を勧める。
- 3 Mさんに対し、友人を作るように助言する。
- 4 住民に呼び掛け、Mさんと同じような状況にある高齢者が参加しやすい居場所づくりを進める。
- 5 一人暮らしは困難と判断し、施設入所に向けて手続を進める。

問題 108 事例を読んで、Q市社会福祉協議会のA社会福祉士の用いた面接技法を示すものとして、正しいものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Q市社会福祉協議会に、一人暮らしのBさん(42歳、男性)が生活が苦しいと相談に訪れた。Bさんは20代後半まで正規就労していたが、体調不良により離職した。それ以来、不安定な就労が続いている。「親には迷惑を掛けたくないし、行政のお世話になるのも気が引ける…」と黙り込むBさんに、A社会福祉士は、「どうにもならなくて、おつらいのですね」と伝えた。

- 1 開かれた質問
- 2 直面化
- 3 自己開示
- 4 対決
- 5 感情の反映

問題 109 ケアマネジメントの方法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 スクリーニングの結果、ケースの終結が判断される。
- 2 アセスメントでは、精神面・身体面の把握のみならず、住環境、家族関係、経済状況、援助の状況など幅広い生活障害全般の把握を行う。
- 3 ケアプランの作成は、過去の類似事例と同様の内容で作成する。
- 4 ニーズと資源の接合(リンケージ)は専門職主導で行い、決定後にクライアントに内容の説明をする。
- 5 モニタリングには、支援が必要と判断された人を支援提供機関などに連絡し、紹介することが含まれる。

問題 110 事例を読んで、C相談支援専門員(社会福祉士)によるストレングス視点に基づいた対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

X指定特定相談支援事業所のC相談支援専門員は、軽度の知的障害があるDさん(18歳)の、特別支援学校高等部卒業後のサービス利用に関する会議を開催することとなった。会議では、Dさん自身からサービス利用について話をしたいとの希望があったので、発言の機会を持つことにしていた。しかし、直前になって、「みんなの前に出るのが不安なので、発言できるか分からない」と言った。

- 1 サービス実施には専門職の意見が重要視されるので、Dさんが発言をやめても差し支えないと伝える。
- 2 C相談支援専門員がDさんの思いを代わりに伝えるので、発言しなくても良いと説明する。
- 3 発言すると自分が決めた以上は、最後まで責任を持ってやり遂げるように指導する。
- 4 自分から発言しようとしたことを尊重し、会議で発言する内容や方法を一緒に考える。
- 5 代わりに家族に発言してもらった方が良いと提案する。

問題 111 ソーシャルワークで活用されるインフォーマルな社会資源の特徴に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 制度化されたサービスである。
- 2 利用者は、一定の手続と受給要件を満たす者に限られる。
- 3 利用者との私的な人間関係を通して、援助が提供される。
- 4 フォーマルな社会資源と比べ、提供されるサービスの継続性や安定性は高い。
- 5 フォーマルな社会資源と比べ、利用者の個別的な状況に対する融通性は乏しい。

問題 112 事例を読んで、E家庭支援専門相談員(社会福祉士)が行った社会資源のアセスメントに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

[事例]

Y乳児院に入所しているFちゃん(2歳)の母親は、自身の慢性疾患による病状が安定したことから、引取りを希望している。そのため、E家庭支援専門相談員はFちゃんの退所を検討することとした。面談の結果、母親の状況として把握したことは以下のとおりである。

退所後は、母親とFちゃんの二人で暮らす予定である。親族は他県に住む母親の姉だけである。近隣の人とは挨拶程度の付き合いである。

- 1 近隣の方は、挨拶程度の付き合いなので社会資源に該当しないと判断する。
- 2 他県に住む母親の姉は、遠方なので社会資源に該当しないと判断する。
- 3 母親のかかりつけ医は、Fちゃんにとっても社会資源に該当すると判断する。
- 4 地域子ども・子育て支援サービスを利用するために必要な情報は、社会資源に該当すると判断する。
- 5 退所した乳児院は、社会資源に該当しないと判断する。

問題 113 グループワークの展開過程において用いられる主な援助技術に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 準備期には、契約の締結がなされる。
- 2 開始期には、援助関係の形成がなされる。
- 3 作業期には、波長合わせがなされる。
- 4 終結期には、集団規範の形成がなされる。
- 5 移行期には、個人的事情や思いの分かち合いがなされる。

問題 114 事例を読んで、グループワークでのG社会福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

G社会福祉士は、子どもをがんで亡くした親の集まりの会を開くことにした。最初の集まりで、自己紹介を行った後、メンバーは自分自身が現在気になっていることについて話し始めた。Hさんの順番になったところ、Hさんは涙を浮かべて何か言おうとするが言葉に詰まる様子であった。

- 1 Hさんに退出を促し、別室で過ごすよう伝える。
- 2 Hさんの気持ちを受け止め、できる範囲で話をするよう伝える。
- 3 グループ活動を中断し、Hさんと別室で個人面談を行う。
- 4 Hさんの思いをメンバーが共有できるように、グループ全体に働き掛ける。
- 5 Hさんの言葉を待たずに、順番を飛ばして次の人に話をするよう促す。

問題 115 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 スーパーバイザーとは、スーパーバイズする立場の人のことである。
- 2 意義は、クライアントへのサービスの質、専門性の質などの維持・向上を図るために業務の振り返りを促すことにある。
- 3 管理的機能とは、スーパービジョン関係を用いて情緒的・心理的な面をサポートすることである。
- 4 支持的機能とは、専門職としての知識・技術・価値・倫理を習得させることである。
- 5 教育的機能とは、業務遂行が可能になるように適切な業務量などに目配りすることである。

問題 116 相談援助におけるプランニングに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 実現することが困難な課題を重視し、策定しなければならない。
- 2 サービス優先アプローチに基づいて策定しなければならない。
- 3 クライアントと協働して策定しなければならない。
- 4 短期目標は、将来的なビジョンを示すものとして設定しなければならない。
- 5 策定したプランの内容に基づいて、エンゲージメントをしなければならない。

問題 117 個人情報の保護に関する法律に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 個人情報取扱事業者には、地方公共団体が含まれる。
- 2 個人情報取扱事業者の義務は、規定されていない。
- 3 健康診断やその他の検査の結果の情報の取得に当たっては、原則として本人の同意を得ることが必要とされている。
- 4 個人情報の有用性に配慮しつつ、個人情報取扱事業者の権利利益を保護することを目的としている。
- 5 個人情報保護に関する官民を通じた基本となる事項を定めた法律である。

問題 118 社会福祉領域における情報通信技術(ICT)の活用に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 情報リテラシーとは、情報通信ネットワークを利用するのに必要な知識や技術のことである。
- 2 デジタル・デバイドとは、福祉情報の積極的な活用を意味する。
- 3 データベース化された業務情報の活用には、データファイルの管理運営が大切である。
- 4 援助における情報収集の段階で、IT機器による音声・画像の記録は禁止されている。
- 5 電子メールによる相談は、個人情報保護の観点から受け付けられない。